

男鹿市の一般会計等財務書類の概要（平成29年度決算）

貸借対照表

市の保有する資産がどれだけあり、その資産がどのような財源（負債、純資産）で形成されているかを表す財務書類です。

資産合計 844億円

(前年度比△21億円)

これまでに形成された道路や建物、基金・現金など、将来世代に引き継ぐもの。

【内訳】
固定資産

831億円

(前年度比△20億円)

(土地、道路、建物、有価証券、出資金、特定目的基金、長期延滞債権など)

流動資産

13億円

(前年度比△1億円)

→ 流動資産のうち、現金預金 4億円

(前年度比△1億円)

負債合計 177億円

(前年度比△7億円)

借入金（市債）や将来支払う職員の退職手当など、将来の世代が負担する債務。

【内訳】

固定負債

159億円

(前年度比△8億円)

(地方債、退職手当引当金など)

流動負債

18億円

(前年度比+1億円)

(1年以内償還予定地方債、賞与等引当金など)

純資産合計 667億円 ←

(前年度比△14億円)

【 純資産=資産-負債 】

資金収支計算書

行政活動を、資金（現金）の流れから見たもので、3つの活動（業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支）ごとに表した財務書類です。

前年度末（平成28年度末）資金残高⑦

5億円

当年度歳計資金増減額⑧

△ 1億円

【内訳】
業務活動収支

4億円

（支出：人件費、物件費、社会保障給付費 収入：市税、地方交付税、国県支出）

△ 1億円

投資活動収支
（支出：公共資産整備費、基金積立支出 収入：公共資産整備に充てた国県支出金、基金の取り崩しなど）

△ 4億円

財務活動収支
（支出：市債の償還 収入：市債の発行）

± 0億円

歳計外現金残高増減

→ 本年度末（平成29年度末）現金預金残高（⑦+⑧）

4億円

行政コスト計算書

資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用と、その行政サービスの直接の対価として得られた収益を対比させた財務書類です。

【内訳】

経常費用①

162億円（前年度比増減なし）

人件費

29億円（前年度比+3億円）

物件費等

57億円（前年度比+1億円）

その他の業務費用

2億円（前年度比増減なし）

（利息の支払い、火災保険料、還付金など）

移転費用

74億円（前年度比△4億円）

（社会保障経費、補助金、特別会計への繰出金など）

経常収益②

4億円（前年度比増減なし）

（施設の使用料や証明手数料などの受益者負担）

純経常行政コスト（②-①）

△ 158億円③

臨時利益-臨時損失

△ 0億円④

（実際は△0.3億）

純行政コスト（③+④）

△ 158億円 ←

純資産変動計算書

貸借対照表の純資産が、どのように増減したかを表す財務書類です。

前年度末（平成28年度末）純資産残高⑤ 681億円

純資産変動額⑥

△ 14億円

【内訳】

純行政コスト

△ 158億円

税収等・国県等補助金・その他

144億円

→ 本年度末（平成29年度末）純資産残高（⑤+⑥） 667億円